

# 2016 Collection of plywood works

第4回全国合板1枚・作品コンペ報告書

公益社団法人 日本木材加工技術協会

日本合板工業組合連合会

公益財団法人 PHOENIX (木材・合板博物館)

日本合板商業組合

主催

# 2016 Collection of plywood works

---

## 第4回全国合板1枚・作品コンペ報告書

はじめに .....	1
実施要項 .....	2
応募者一覧 .....	6
入賞作品一覧 .....	8
審査委員長講評 .....	10
実行委員長総評 .....	11
入賞作品紹介 .....	13
雑誌記事 .....	52
フォトグラフ .....	55
コンペ記録 .....	57
募集チラシ .....	62



## はじめに

第4回全国合板1枚・作品コンペ実行委員長  
横浜国立大学教育人間科学部准教授

小林 大介

第4回全国合板1枚・作品コンペが公益社団法人日本木材加工技術協会、日本合板工業組合連合会、公益財団法人PHOENIX（木材・合板博物館）、日本合板商業組合の4団体を主催として、また林野庁をはじめとする多くの協賛団体、後援団体のご支援により2016年に開催されました。大会を無事に開催できましたこと、事務局、実行委員会を代表しまして関係各位に御礼申し上げます。合板コンペは、今回で第4回を迎えることができました。2010年に日本木材加工技術協会中国支部（山下晃功実行委員長（島根大学教授：当時））を中心にその産声を上げ、合板の新たな魅力の創造を目指してきました。第1回、第2大会が島根にて開催され、ともにとても盛況な大会となりました。そして第3回大会より事務局を横浜に移し、今回の第4回大会を迎えました。第4回大会では第3回大会の応募作品数を上回る97件のご応募をいただき、更に新たな合板の新時代を発見することとなりました。応募された方々の年齢も様々で、下は小学校1年生から上は70歳オーバーの方までになりました。これほど多種多様な方々が、合板を材料としてものづくりに励む姿を想像すると、この日本という国に根付いたものづくりの精神に感嘆せざるを得ません。この合板コンペには「合板1枚（1800×900mm）以内」という材料の使用量の制限があります。本報告書の後頁に第4回大会の入賞作品が掲載されていますが、そのすべての作品がちょっと前までたった1枚の合板だったということになります。1枚の合板が、人知の工夫・創造によってどのような変貌を遂げたのかをぜひご覧ください。

この合板1枚コンペは今後も第5回、第6回と続いていくことと思います。本報告書をご覧になり、「我こそは！」という方、ぜひ次回のご応募をお待ちしております。また、本合板コンペの継続には、木材業界をはじめとする多くの方々のお力が必要です。今後ともご支援賜れますようお願い申し上げます。

今後も合板が皆さんの身近な材料としてあり続けること、この合板コンペが合板業界、木材業界の発展の一助となることを祈念いたします。

# 実施要項

## 1. 「合板1枚・作品コンペ」の開催趣旨

木質材料、木質建材の代表格「合板」が我が国に誕生して、1世紀余りになります。現在では、国内の多くの建築物には合板が使われていないものは無いといっても過言ではありません。そして、多くの合板は、住宅の構造材料のみならず内装材、家具材料として住まいの国民生活をしっかりと大きく支えてきています。

しかし、こんなに身近に大量に使用され、住宅を支える重要な建築材料の合板であるにも関わらず、その多くは壁の中、屋根裏、床下などで裏方として世の表舞台になかなか登場することがありません。

そこで、この合板1枚・作品コンペでは、合板の魅力を目に見える形で、全面的に活かした建築材料、家具材料、造形材料、ものづくり工作材料、美術・工芸材料、生活材料、教育文化材料など広範囲な分野で、一般生活者の皆様方からお知恵をいただき、よりよい合板の魅力を発掘してもらおうとするのが趣旨です。また、2012年に日本合板工業組合連合会及び現・公益財団法人PHOENIX（木材・合板博物館）によって、日本で最初に合板製造が開始された11月3日が「合板の日」として制定されました。この「合板の日」制定の記念行事の重要な一つとして、合板の国民生活への必要性や重要性、さらには木質材料「合板」としての魅力の後世に引き継ぐことを目的に本コンペを実施することといたしました。

今日、「合板」は「森林・林業基本計画」の目標達成や「東日本大震災の復興」に大きく貢献しています。そして、大気中のCO<sub>2</sub>の合板への固定による地球温暖化防止に貢献し、日本の森林・林業と山村の振興に大きな期待が寄せられているところです。

さらには、合板素材の木材は、地球と人類に優しい「持続可能で再生可能な循環天然資源」でできております。

この地球環境に良い合板の、強さ、美しさ、優しさ、おもしろさ、ユニークさ、繊細さなど多面的な合板の魅力を多くの国民の皆さんによって、引き出していたきたいのです。

## 2. 作品募集部門

次の2部門で募集します。

①一般の部（高校生以上）

②ジュニアの部（小学生・中学生）

高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

## 3. 審査基準

本コンペの趣旨を踏まえ、以下の項目を考慮して審査します。

①合板の良さ、美しさ、おもしろさなどが活かされているもの

②合板1枚を有効に利用しているもの

③合板の利用について普及効果があるもの

④合板の新たな用途開拓を見出したもの

⑤合板の強度特性、物理的特性を活かしたもの

## 4. 応募条件

上記の「審査基準」や下記の「作品規格」に従って、制作したオリジナルで未発表のものであること。著作権、工業所有権を侵害すると判断されたものは除外されます。応募は個人又はグループのいずれでも可能です。

### 「作品規格」

①合板1枚とは、板幅90cm×板の長さ180cmの3×6（サブロク）サイズ1枚の面積のことで、板厚は自由です。使用合板は1枚以下でも結構です。ただし、各種の板厚の合板を組み合わせる場合は、合計の面積が90cm×180cm=16,200cm<sup>2</sup>になるように使用してください。

②家具金具（丁番、取手、キャッチャーなど）、補強金具、接合金具などは自由に使用できます。

③作品に色を塗ったり、絵を描いたり、彫刻、布貼りなどの表面装飾を行うこともできます。

④特殊な合板を製造して使用する場合や、特殊な規格の合板を使用する場合は事務局にお問い合わせください。

### ＜留意事項＞

すべての応募作品の権利（著作権など）は制作者に帰属します。しかし、入賞、出展作品の展示及び作品

集などの印刷物への使用上の権利は主催者に帰属します。作品の返却は送料など自己負担で行っていただきます。

上位入賞作品については、主催団体および関係団体による展示場やイベント会場などでの作品紹介を目的として、寄贈をお願いする場合があります。

## 5. 応募方法

応募は2段階に分けて行います。最初1次応募を書類でしていただき、その書類審査を行います。次に、1次応募で選ばれた作品について、2次応募を実物作品でしていただき、その実物作品の審査を行います。

### 応募期間

1次応募期間：平成28年8月22日（月）～平成28年9月9日（金）必着

（作品の書類のみをお送りください）

2次応募期間：平成28年9月26日（月）～平成28年10月12日（水）必着

（作品の実物をお送りください）

### 応募方法

ホームページ（<http://gouhancompe.jp/>）上から1次応募用紙をダウンロードし、応募用紙に、作品の設計図、作品の正面、側面、平面の3方向から撮影した写真、スケッチ（フリーハンドでも可）などで作品の寸法、構造、機能や特徴を記入したものを郵送にて下記の事務局まで締め切り日必着で送付してください。

1次審査合格者の方は、2次審査を作品実物で行います。各自でダンボール箱などで梱包し、所定の用紙（1次審査合格者に合格通知とともに送付します）を貼り付けて、送料応募者負担で、締め切り日必着で事務局まで送付してください。また、お送りした宅急便伝票には作品の返送先の宛名、氏名などを記入して、作品と同時に送ってください。

### 応募・送付先、事務局

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学教育人間科学部技術教育講座

小林大介（こばやし だいすけ）

電話 045-339-3445

ファックス 045-339-3345

E-mail kobadai@ynu.ac.jp

## 6. 審査結果発表

1次審査結果発表：平成28年9月21日（水）

ホームページ（<http://gouhancompe.jp/>）上で発表します。

また、1次審査合格者には、郵送でお知らせし、作品実物を2次応募期間中に事務局まで送ってください。

2次審査結果発表：平成28年10月26日（水）10時からホームページ（<http://gouhancompe.jp/>）上で発表します。

## 7. 表彰

**最優秀賞（林野庁長官賞：一般の部）**

副賞：賞金20万円 1件

**最優秀賞（林野庁長官賞：ジュニアの部）**

副賞：賞金8万円（図書カード） 1件

**公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞**

副賞：賞金7万円 1件

**日本合板工業組合連合会会長賞**

副賞：賞金7万円 1件

**公益財団法人PHOENIX木材・合板博物館理事長賞**

副賞：賞金7万円 1件

**「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞**

副賞：賞金7万円 1件

（アイデア、奇抜さ、新規性、おもしろさに優れた作品へ贈る賞）

**「倉澤 貴 デザイン」賞**

副賞：賞金5万円 1件

（美術彫刻、造形に特に優れた作品へ贈る賞）

**「山下晃功 木育」賞（ジュニアの部）**

副賞：賞金3万円（図書カード） 2件

（児童・生徒が合板の特性を活かし、若人らしく工夫・創造し、顕著に努力した力作に贈る賞。小学生、中学生から各1名）

**優秀賞**

副賞：賞金3万円 2件

### 特別賞

副賞：賞金2万円 2件

### 合成樹脂工業協会接着剤部会賞

副賞：商品券2万円 2件

### 奨励賞

副賞：記念品 数件

(小学生、中学生、高校生、高専生、大学生などの若人を対象に、今後の向上に期待できる作品に贈る賞。それぞれ数件)

### 努力賞

副賞：記念品 数件

※高校生(高専3年生以下を含む)以下が受賞した場合、現金ではなく同額の図書カードを贈呈します。小学生、中学生、高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

## 8. 表彰式

表彰式は木材・合板博物館(東京・新木場)において平成28年11月27日(日)14時から行います。

## 9. 入賞作品展示会

入賞作品を広く紹介させていただくために、表彰式と並行して入賞作品展示会を開催し、下記の期間に開催します。

日時 平成28年11月27日(日)～平成28年12月末

場所 木材・合板博物館(東京・新木場)

## 10. 受賞作品の紹介

主催団体、後援団体、協賛団体が責任を持つ誌(紙)面媒体、ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)にて発表します。

## 11. 主催団体

公益社団法人 日本木材加工技術協会

日本合板工業組合連合会

公益財団法人PHOENIX(木材・合板博物館)

日本合板商業組合

## 12. 協賛団体

一般財団法人 田部謝恩財団

合成樹脂工業協会 接着剤部会

一般社団法人 日本木工機械工業会

公益財団法人 日本合板検査会

国立大学法人 横浜国立大学

木育全国生産者協議会

学研パブリッシング刊・ドゥーパ!編集部

株式会社日刊木材新聞社

海青社 他

## 13. 後援団体

林野庁

一般社団法人 日本木材学会

日本産業技術教育学会木材加工分科会

日本木材青壮年団体連合会

全日本中学校技術・家庭科研究会

公益社団法人 全国中学校産業教育教材振興協会

一般社団法人 日本DIY協会

全国高等学校建築教育連絡協議会

公益社団法人 全国工業高等学校長協会

一般社団法人 全国高等専門学校連合会

開隆堂出版株式会社

東京書籍株式会社

株式会社テクノ教育 他

## 14. 合板1枚・作品コンペ実行委員会

実行委員長

横浜国立大学教育人間科学部准教授 小林大介

副実行委員長

東京学芸大学准教授 大谷 忠

東京大学大学院農学生命科学研究科講師 青木謙治

審査委員長

埼玉大学教育学部教授 浅田茂裕

実行委員

上越教育大学大学院学校教育研究科准教授 東原貴志

横浜国立大学教育人間科学部教授 坂本 智

ものづくり大学准教授 佐々木昌孝

静岡大学大学院農学研究科助教 田中 孝

## 第4回全国合板1枚・作品コンペ◎実施要項

関東学院中学高等学校教諭	寺島 徹
公益社団法人日本木材加工技術協会会長	服部順昭
日本合板工業組合連合会会長	井上篤博
公益財団法人PHOENIX理事長	吉田 繁
日本合板商業組合理事長	足立建一郎
顧問	
島根大学名誉教授	山下晃功
ものづくり大学学長	赤松 明

### 15. 合板1枚・作品コンペ審査委員会 (主に第2次審査を担当)

審査委員長	
埼玉大学教育学部教授	浅田茂裕※
副審査委員長	
島根大学総合理工学部准教授	吉延匡弘
審査委員	
一般財団法人 田部謝恩財団理事長	又賀航一
(「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞担当)	
公益社団法人日本木材加工技術協会合板部会長	
森林総合研究所複合材料研究領域長	塔村真一郎
公益財団法人日本合板検査会理事長	河野元信
東京おもちゃ美術館館長	多田千尋
(「山下晃功 木育」賞担当)	
一般社団法人日本家具産業振興会会長	加藤知成
一般社団法人日本DIY協会専務理事	樋口恭司
全国造形教育連盟委員長	大野正人
公益社団法人全国工業高等学校長協会「全国高等学校 インテリア科教育研究会」会長	鳥屋尾史郎
公益財団法人 PHOENIX (木材・合板博物館)	
プロデューサー	長谷川麻紀
女性木工指導者	番匠智香子
「一枚の合板から」展主宰、建築家	田中敏博
「ドゥーバ!」編集長	豊田大作
埼玉大学教育学部准教授	石上城行
(「倉澤 實 デザイン」賞担当)	
横浜国立大学教育人間科学部准教授	原口健一
(「倉澤 実 デザイン」賞担当)	
ものづくり大学准教授	佐々木昌孝※
※第1次審査も担当	

# 応募作品一覧

## ①一般の部

作品名	応募者名	都道府県名・所属
key box	及川 玲可	東京都立工芸高校
フラワーベース	梶野 晋ノ介	東京都立工芸高校
PETable/ベッタブル (PETbottles×portable)	篠原 彩巴	東京都立工芸高校
ペニャーチェアー	高橋 裕哉	東京都立工芸高校
木篝灯 (こがかり)	中川 花琳	東京都立工芸高校
江戸神輿	西澤 直斗	東京都立工芸高校
木の歯車	加賀谷 友冴	東京都立田無工業高校
ランプス	小澤 優生	東京都立田無工業高校
仕切りの動く本棚	浅見 遊	東京都立田無工業高校
我が家の傘立て	若林 保志	東京都立田無工業高校
wood car	坂田 迅	東京都立田無工業高校
折りたたみ式椅子	清水 滉太	東京都立田無工業高校
小物置き	鳥海 みのり	東京都立田無工業高校
シンプル the best	石橋 俊佑	東京都立田無工業高校
バナナchair	大友 慎	仙台市立仙台工業高校
エコバック	佐藤 渉	仙台市立仙台工業高校
アーチチェア	庄司 佑太	仙台市立仙台工業高校
光の扉	庄司 航	仙台市立仙台工業高校
回る棚	藤島 海那人	仙台市立仙台工業高校
サンダンダナ	森 郁人	仙台市立仙台工業高校
ボックスティッシュカー	渡澤 亮友	仙台市立仙台工業高校
Wood ガチャ	伊藤 成海	島根県立出雲商業高校
合板スマホスタンド	川上 菫太	島根県立出雲商業高校
パーフェクトデスク	桑原 飛翔	島根県立出雲商業高校
収納付きテレビ台	古川 朱理	島根県立出雲商業高校
スリッパ立て	安食 実奈	島根県立出雲商業高校
2 Way Box	三原 まどか	島根県立出雲商業高校
トランスフォーメーションバッグ	加藤 実桜	島根県立出雲商業高校
LeaFlower	永瀬 優花	島根県立出雲商業高校
別BEX	福島 啓太	島根県立出雲商業高校
Dream chair	皆尾 壮成	島根県立出雲商業高校
まな板	高橋 丈一郎	島根県立出雲商業高校
wood stand	星野 悠佳	島根県立出雲商業高校
本棚	三浦 大貴	島根県立出雲商業高校
木瓶	大國 真央	島根県立出雲商業高校
ソーイングボックス	池谷 圭紀	神奈川県立平塚工科高校
イス型スーツケース	宮下 凱充	神奈川県立平塚工科高校
ブックボックス	細井 明日香	神奈川県立平塚工科高校
ちえすと	赤川 翔一	神奈川県立平塚工科高校
本棚	木野 寿純	神奈川県立平塚工科高校
2 way furniture	玉置 修斗	兵庫県立東播工業高校
水戸聾学校産業工芸科オリジナル・パズル	茨城県立水戸聾学校産業工芸科	茨城県立水戸聾学校
木製サッカーゲーム	石田 凱風	愛知県立名古屋聾学校
ストーブ型ランプ	河村 雅矢	愛知県立名古屋聾学校
道後温泉駅と坊っちゃん列車	鈴木 豪	愛知県立名古屋聾学校
ぬくもりのキャリーケース	田中 俊輔	横浜国立大学
俺のホンダナ	菅原 理彦	横浜国立大学
ストライプバスケット	源馬 正也	横浜国立大学
小物入れつきいす型飾り台 (合板アンティーク仕上げ)	貝沼 隆志	横浜国立大学
キリンさんの椅子	犀川 馨之	横浜国立大学
百葉箱	加瀬 紘熙	横浜国立大学



# 応募作品一覧

作品名	応募者名	都道府県名・所属
Falling water	佐藤 稜	島根大学
ロールチェア	中上 貴也	島根大学
木漏れ日の林檎	阿比留 華	島根大学
光るぶどう	本間 琢也	東京学芸大学
スライドチェア	黒木 俊希	宮崎大学
材質感	小谷 萌	宮崎大学
木楽々ロッキングチェア	宇佐美 佳那	三重県
気分に合わせて使えるイス	和田 央	愛知県
本立てとパソコン台	森田 綾	横浜国立大学大学院
化粧箱	王 一婷	横浜国立大学大学院
化粧箱	区 麗君	横浜国立大学大学院
ノコ立て	林 敬徳	横浜国立大学大学院
やわらか木枕	三根 拓也	横浜国立大学大学院
サイドテーブルとスツールのセット	長濱 萌葉	沖縄県立芸術大学
子ども机	藤村 敬子	富山県
フリーリストツール	中西 要成	北海道
サッカーボールオブジェ	中山 哲次	愛知県
癒しのローテーブルライト	吉野 俣尚	埼玉県
風のベッド	岩本 玲奈	愛知県
おばけパズル	井上 幸人	東京都
合板でオシャレ！	糸のこキャット	愛知県
炎のスツール	菅田 英武	島根県
REBORN！	田中 芳貴	東京都
知恵の玉	木林 昭夫	愛知県
Night Session	富岡 昭光	東京都
Free-floating Panel 自由に動く通風間仕切りパネル	上嶋 さとみ	兵庫県
爆苦労働horn II	砺波 浩二	富山県
コーヒーテーブル	松永 欣也	神奈川県

## ②ジュニアの部

作品名	応募者名	都道府県名・所属
ピアノ下収納ワゴン	太田 明佳	島根大学教育学部附属小学校
チョコレート・ケース	大島 遥	島根大学教育学部附属小学校
いろいろ使える教科書立て	堀江 美智	島根大学教育学部附属小学校
ゴミ箱（ティッシュを備えてる）	千葉 太元	島根大学教育学部附属小学校
おうちの宝物入れ	森脇 紗代	島根大学教育学部附属小学校
小物の家	島村 かれん	島根大学教育学部附属小学校
シンプルに	塚野 花梨	横浜市立神橋小学校
うみをしらべるおうち	山本 悟	横浜市立神橋小学校
あおきくん	よしだ かい	横浜市立白幡小学校
子じか	星川 歩実	横浜市立斎藤分小学校
まあはす号～みんな笑顔になる～	学童・子ども教室 まあはす	神奈川県
木玉	佐藤 那津	関東学院中学校
ソファサイドテーブル	小河 昭太	横浜市立岡津中学校
おばあちゃんのための宝宝箱	藤井 凌空	横浜市立岡津中学校
パネルカレンダー	矢口 凌雅	横浜市立岡津中学校
弟のための家	山谷 翔太	横浜市立岡津中学校
cat box	大森 遥哉	横浜市立岡津中学校
和	森谷 聡	横浜市立岡津中学校

# 入賞作品一覧

賞名	作品名	応募者名	年齢	都道府県名・所属
最優秀賞 (林野庁長官賞：一般の部)	バックロードホーン 爆苦勞ど'horn II	トナミ コウジ 砺波 浩二	56	富山県
最優秀賞 (林野庁長官賞：ジュニアの部)	木玉	サトウ ケツ 佐藤 那津	14	神奈川県・ 関東学院中学校
公益社団法人 日本木材加工技術協会会長賞	ストーブ型ランプ	カワムラ マサヤ 河村 雅矢	20	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科
日本合板工業組合連合会会長賞	炎のツール	スガタ ヒデタケ 管田 英武	74	島根県
公益財団法人PHOENIX木材・ 合板博物館理事長賞	フリーリスツール	ナカニシ ヨウセイ 中西 要成	69	北海道
「合板1枚・作品コンペ 発祥の地 島根」賞	key box	オイカワ レイカ 及川 玲可	17	東京都・ 東京都立工芸高等学校
「倉澤 實 デザイン」賞	炎のツール	スガタ ヒデタケ 管田 英武	74	島根県
「山下晃功 木育」賞 (ジュニアの部)	おうちの宝物入れ	モリワキ サヨ 森脇 紗代	10	島根県・島根大学 教育学部附属小学校
「山下晃功 木育」賞 (ジュニアの部)	和	モリタニ サトシ 森谷 聡	15	神奈川県・ 横浜市立岡津中学校
優秀賞	おぼけパズル	イノウエ ユキト 井上 幸人	34	東京都
優秀賞	知恵の玉	キバヤシ アキオ 木林 昭夫	82	愛知県・ 株式会社名南製作所
特別賞	道後温泉駅と坊っちゃん列車	スズキ ゴウ 鈴木 豪	20	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科
特別賞	江戸神輿	ニシザワ ナオト 西澤 直斗	16	東京都・ 東京都立工芸高等学校
合成樹脂工業会接着剤部会賞	合板でオシャレ!	イト 糸のこキヤット	50	愛知県

## 第4回全国合板1枚・作品コンペ◎入賞作品一覧

賞 名	作品名	応募者名	年齢	都道府県名・所属
奨励賞	弟のための家	ヤマヤ ショウタ 山谷 翔太	13	神奈川県・ 横浜市立岡津中学校
奨励賞	木製サッカーゲーム	イシダ ガイフウ 石田 凱風	19	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科
奨励賞	ベニヤーチェア	タカハシ ヒロヤ 高橋 裕哉	17	東京都・ 東京都立工芸高等学校
奨励賞	PETable / ペットابل (PETbottles × portable)	シノハラ イロハ 篠原 彩巴	17	東京都・ 東京都立工芸高等学校
奨励賞	光るぶどう	ホシマ タクヤ 本間 琢也	21	東京都・東京学芸大学
奨励賞	やわらか木枕	ミネ タクヤ 三根 拓也	24	神奈川県・ 横浜国立大学大学院
努力賞	まあはす号 ～みんな笑顔になる～	学童・子ども教室 まあはす	6～8	神奈川県
努力賞	小物の家	シマムラ 島村かれん	9	島根県・島根大学 教育学部附属小学校
努力賞	ゴミ箱 (ティッシュを備えてる)	チバ タイゲン 千葉 太元	10	島根県・島根大学 教育学部附属小学校
努力賞	エコバック	サトウ ワタル 佐藤 渉	17	宮城県・仙台市立 仙台工業高等学校
努力賞	トランスフォーメーションバッグ	カトウ ミオ 加藤 実桜	17	島根県・島根県立 出雲商業高等学校
努力賞	イス型スーツケース	ミヤシタ カイシュウ 宮下 凱充	17	神奈川県・神奈川県立 平塚工科高等学校
努力賞	スライドチェア	クロギ トシキ 黒木 俊希	18	宮城県・宮崎大学
審査委員特別賞	木の蘭車	カガヤ ユウガ 加賀谷 友苺	16	東京都・東京都立 田無工業高等学校
審査委員特別賞	水戸聾学校 産業工芸科オリジナル・パズル	茨城県立水戸 聾学校産業工芸科	17～18	茨城県・茨城県立 水戸聾学校産業工芸科
審査委員特別賞	ロールチェア	ナカウエ タカヤ 中上 貴也	20	島根県・島根大学
審査委員特別賞	サイドテーブルとスツールのセット	ナガハマ モエナ 長濱 萌菜	22	沖縄県・ 沖縄県立芸術大学
審査委員特別賞	癒しのローテーブルライト	ヨシノ ヨシヒサ 吉野 倣尚	52	埼玉県
審査委員特別賞	Night Session	トミオカ アキミツ 富岡 昭光	55	東京都

# 審査委員長講評

埼玉大学教授  
浅田 茂裕

審査委員会では、合板に関係する産学官の専門家により慎重に協議を進め、一般の部、ジュニアの部それぞれの最優秀賞をはじめとして、各賞にふさわしい作品を選出しました。以下に、上位入賞作品についてコメントいたします。

**一般の部 最優秀賞（林野庁長官賞）「爆苦労ど horn II」**

この作品は、ドーナツ型の多数のパーツを組み合わせており、合板の良さをうまく使っています。仕上げが抜群で、接合部の精度が非常に高い。ホーンの内側が無塗装であることから、音響的にも優れていると想像されます。

**ジュニアの部 最優秀賞（林野庁長官賞）「木玉」**

加工が大変な作品で、審査員一同「よくやった」という感想をもちました。計算して、時間をかけないといけない大人顔負けの作品で、中学生の技術力、発想力をはるかに越えています。接合の工夫が素晴らしい、製作工程を見たくくなります。照明のデザインとしても応用でき、これから形を変えていくかと思うと楽しみです。仕上がりを工夫すれば尚よくなるでしょう。

**公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞「ストーブ型ランプ」**

合板からストーブという発想がユニークです。いろいろな形状に加工、組み立て、本当のストーブのように忠実に仕上げられました。前方の燃料ツマミをまわすとあたたかな色のランプが点灯する、メーターがあるなど、遊び心にあふれ、ストーブがよく再現されています。観察力が素晴らしく、よく研究されており、作者の情熱を感じました。

**日本合板工業組合連合会会長賞、「倉澤賞 デザイン」賞「炎のツール」**

形やデザイン性に優れている作品で、木目と色彩の対比が素晴らしいと思います。2種類の合板を使い、局面がきれいに整形され、素晴らしい技術力です。国産スギの合板を使用し、その木目の美しさが生きており、作品名にふさわしい仕上がりとなっています。

内部には強度的な工夫がされており、座り心地もよく、スツールとしての安定性も十分です。

**公益財団法人PHOENIX木材・合板博物館理事長賞「フリーリスツール」**

細長い合板がデニム生地でつながれており、座面にあわせて3種類の形に変化する。異素材と組み合わせる合板の新しい使い方が提案されています。座面の板を組み合わせ、最後に丸形がはまった瞬間、きれいなスツールの姿が表れます。座面の形を変えることで作品のイメージが変わり、楽しみ方がいろいろあります。座面を外すと運ぶのに便利で、いろいろな場面で使えそうな作品です。

**「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞「key box」**

積層面をきれいに活かし、合板をうまく使用している作品です。外側の背表紙の部分もきちんと本になっていて、実用的で、装飾もすばらしい。積層面の触り心地がとともよく、美しい仕上がりです。

**「山下晃功 木育」賞「おうちの宝物入れ」**

小学生の夢が詰まった、秘密の屋根裏部屋があります。デザインを考えて一生懸命塗装しており、ステンドグラス風の窓の絵が特徴的な作品です。取っ手がドアになっていたり、屋根が外れたりするなど、作品作りにとっても努力したことが伝わります。

**山下晃功木育賞「和」**

引き戸のところまで積層にするなど、細かいところにこだわりのある作品です。赤富士もすてきで、和を感じさせます。彫刻刀で削ったり、いろいろな合板の使い方をしたりするなど、努力のあとが伺えます。

**合成樹脂工業会接着剤部会賞「合板でオシャレ！」**

合板をたっぷり使った作品です。長蝶番が非常に上手に取り付けられており、作品を引き立てています。実用的であるばかりか、オシャレに必要なアイテム一式が合板によって生み出されたことに驚きを感じます。

# 実行委員長総評

横浜国立大学教育人間科学部准教授  
小林 大介

「はじめに」でも触れましたが、第4回合板1枚・作品コンペは、下は小学校1年生から上は70歳オーバーまで多種多様な方々の応募作品により開催されました。改めまして、ご応募いただいた方々に御礼申し上げます。第3回大会では、それまでの「ジュニアの部」を廃止し、すべての作品を一律に審査する試みを行いました。高校生や聾学校の高等部の方々の作品に非常にレベルの高いものが多く、それらが上位の賞を受賞し非常に良い大会となりました。しかし、小学生の作品が5件、中学生の作品が7件と比較的少なかったため、第4回大会では小中学生からの多くの作品応募を期待して、「ジュニアの部」を復活させ、そのカテゴリーの最優秀賞（林野庁長官賞）も設定することとしました。残念ながら中学生の作品は、7件と同数で増えませんでした。小学生の作品が11件と大きく増やすことができました。今後の合板コンペ開催に向けて、更に小中学生の皆さんが応募しやすい施策を考えたいと思います。

今回のコンペに応募された方々の所属別の応募数ですが、小学生11件、中学生7件、高校生（聾学校高等部を含む）45件、大学生・大学院生21件、一般の方が13件の計97件となりました。第3回大会の総応募数が85件でしたので、12件増となりました。今後も開催予定の第5回、第6回に向けて、更に多くの方々のご応募をお待ちしております。

今回応募された作品の特徴について触れたいと思います。かつての合板の使い方は、面材として平面的に使用するのが主で、断面は突き板や木目シールなどで覆い隠されていました。しかし、今回応募された作品を見てみますと、逆に断面の模様を意匠的に利用している作品が非常に多く、一般の部「最優秀賞（林野庁長官賞）」受賞の「爆苦勞どhorn II」は、断面の模様を最大限に生かしておりとてつもない迫力を表現して

いました。「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根賞」受賞のkey boxでは、合板の断面をうまく生かして書籍の断面を表現していました。このように合板の「断面」の使い方、見せ方ひとつとっても、新たな合板の魅力の創造は広がっているように思います。

今後も合板コンペにおいて、新たな合板の魅力を多くの方々に引き出していきたいと願っております。

# 2016 Collection of plywood works

第4回全国合板1枚・作品コンペでの入賞33作品を紹介します。

最優秀賞(林野庁長官賞：一般の部)

バックロードホーン

爆苦勞どhornII

砺波 浩二 となみ・こうじ●富山県/56歳

スピーカーにはいろいろな形式の箱があり、一般的に市販されているものでは密閉型・バスレフ型が主流で、そのほとんどがスピーカーユニットの後面から出る音を有効に活用するために設計されています。

特に低音を増強するのが目的になりますが、その中でも特に低域増強効果の高いバックロードホーンというホーン状にしたものを設計しました。普通は箱の中に仕切りを入れ簡単なホーンにするものですが部品点数が多くなるのと加工が難しくコストがかかるのでメーカー製の物はほとんどありません。今回は更にリアルなホーンを目指して設計しました。

材質と厚さが均一であること、加工がしやすいことから無垢材ではなくシナ合板を使用しました。加工は自在錐を使い、ひたすら合板をドーナツ状に切り抜き多数の部品を作りました。削りかすと端材はかなりの量になりました。

苦勞した甲斐があり、たった8cm口径のスピーカーからは想像できない量の低音が出てくれました。

またマグネットが強化されたPARC Audio社のDCU-F102Wというスピーカーユニットは、赤いリングと木目が綺麗なウッドコーンがアクセントになり見栄えのいいものになったように思います。



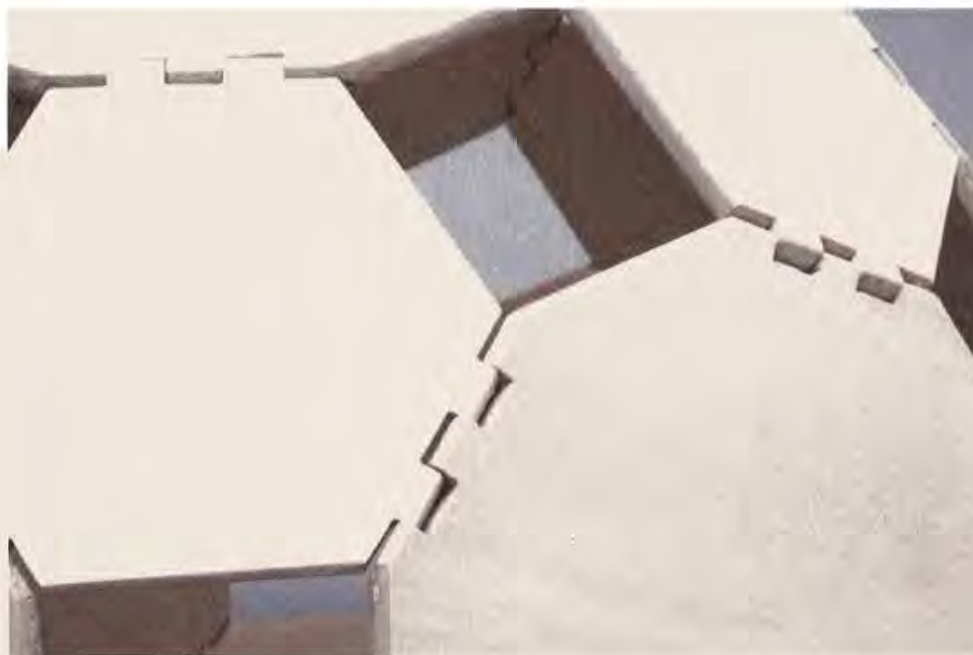




## 木玉

佐藤 那津 さとう・なつ ●神奈川県・関東学院中学校 / 14歳

この作品は、9mmのシナ合板と爪楊枝が使われていて、総額3,700円程です。参考にしたものは、斜方切頂20・12面体という立体です。正方形30枚、正六角形20枚、正十角形12枚の、62枚で出来ていて、その立体の正方形30枚を抜いています。作品を少し見ただけでは組み木だけに見えるけれど、爪楊枝を組み木部分入れているので、壊れにくいんです。ボンドなどの接着剤は爪楊枝の入り口のみなので、組み木部分には接着剤が入っていません。そして、角を丸めることにより、ささくれなどでけがをすることが、ほとんどないです。正方形の部分が開いていて、中は空洞なので裏を見ることができて、中から照らせば光が漏れて綺麗です。この作品を作るとき、共同作業には書けなかったけれど、合板を切るときの型や構想図を家族が作ってくれて、やすりや切断を、部活の先輩や先生に手伝ってもらい、無事一週間程で完成させることができました。戦人のように正確にはできないけれど、接着剤だけでなく、組み木でやることにより、面白さが増していると思います。





## ストーブ型ランプ

河村 雅矢 かわむら・まさや ●愛知県・愛知県立名古屋製学校産業工芸科/20歳

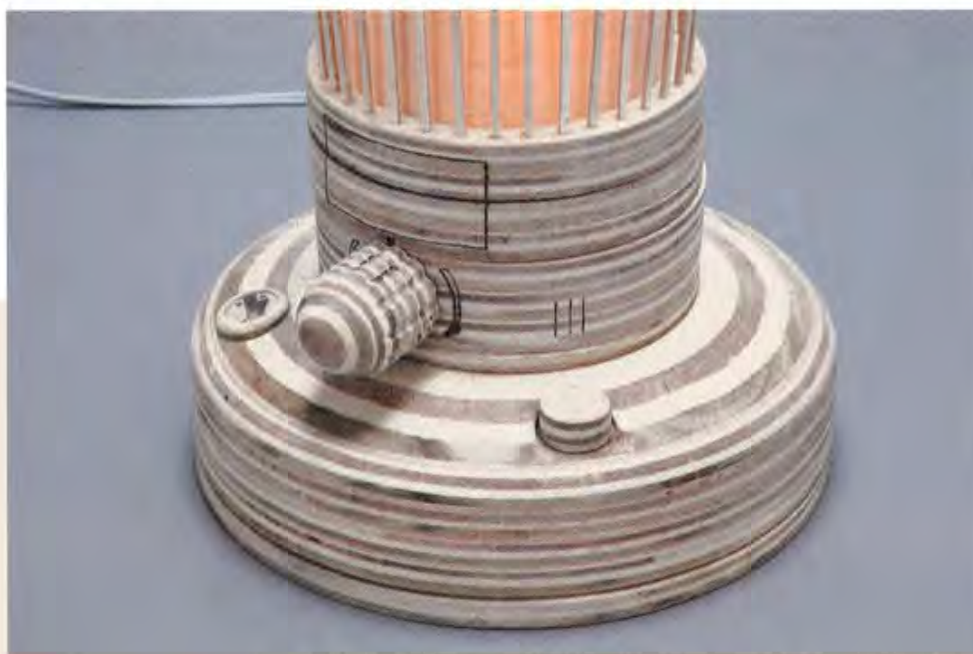
私の来年入社予定の会社がストーブメーカーなので、就業体験の時に見たストーブからストーブ型ランプを作ろうと思いつきました。モデルにしたストーブの原寸大が、高さ48cm、幅39cmで2/3スケールにしました。

ストーブの灯りの部分は、本物は七色に輝く炎の輪が見えるのですが、合板でどういう表現に出来るか考えました。和紙という選択もありましたが、私は全て木で表現したいという気持ちが強かったので方法を模索しました。シナ合板の木目が綺麗で、それを自動一面鉋盤で削り、ドラムサンダーで何回も薄く削り、電球の明かりを温かく表現することが出来ました。つまみを回すと軸につけてある木がスイッチを押し、明かりをつけるようになっています。電球のメンテナンスの為に本体部分を開けることが出来るようにも工夫しました。

ストーブの見た目は合板の木目を活かしてあえて塗装はしませんでした。ストーブのタンクの部分の丸みで木の柔らかさや、明かりで木の温かみを感じてほしいと思います。

製作期間は、4月から1ヶ月くらい構想に費やし、10月初めまで4ヶ月間かけて製作しました。かかった費用は、ラワン合板12mm半分とシナ合板5.5mmを1/8を使用したので、合計1,110円程です。

卒業したら、自宅のリビングで間接照明として使いたいと思います。





## 炎のstuhl

管田 英武 すがた・ひでたけ●島根県／74歳

この作品を制作する上で留意した点は

1. 活火山のイメージ

TVニュースで見た火山爆発のエネルギーに感動し、合板で活火山を再現してみようと思いました。

2. 火口座面のあるstuhl

曲線のある座面に対して横棧を多用し、荷重強度が保てるようにしました。

3. 各パーツの強度と厚さ

山の側面のパーツは、厚さが12mmと6mmがあり、その上に全ての角度が異なるため、接合部分の仕上げ精度に相当注意が必要でした。

以上の3点です。

真っ赤に燃える火口に座して、炎のパワーをもらえば「よし、今日も頑張るぞ!」と元気な力がきっと湧いてくると信じております。

因みに古来より赤い色は、人の気持ちを高揚させ体を温めるという心理的な効果があるとされています。





## フリーリスツール

中西 要成 なかにし・ようせい●北海道/69歳

材料：コンクリート型枠用合板12mm厚、デニム生地

費用：2,200円

制作日数：4日

手に入れ易いコンクリート型枠用合板（以下コンパネ）で、温もりのあるツールを製作しようと思い、それを積層した時の木口面の美しい模様を作品に活かしたいと考えました。

ツールの脚部は、コンパネ2枚を積層して18mm×24mm×360mmの細長いコア40本に切断し、それを自在に変形できるようにデニム布で環状に裏打ち連結し、変形可能な脚部としました。

座面は、コンパネの木口面が表面になるよう23mm厚に積層し、木質感漂う三角型、丸型、四角型の座面を作り、それらを入れ替えることによりイメージの異なるツールに簡単に組み変えることができます。この他にも座面の形を変えることにより色々と自在に変形できるので、楽しく使えるツールになります。

塗装は、木地面のストライプ模様が引き立つよう、クリヤーラッカーを刷毛塗りで光沢仕上げにしました。

収納時は、座面を外すと脚部がフラットな2段重ねにできコンパクトになるのでとても便利です。







## key box

及川 玲可 おいかわ・れいか●東京都・東京都立工芸高等学校／17歳

私は本が好きで家にはたくさんの本があります。その本を読むだけのものにするのではなく、インテリアの一部として取り入れることができれば、おしゃれなインテリア空間を作ることができるのではないかと思います。

そこで、「本」をキーワードに私の好きなアンティーク調の家具を作ろうと思い、サイズ感も用途も丁度よい鍵掛けを作ろうと思いました。この鍵掛けを作るにあたって私はいかに見る人を裏切るかということを目指し、また、外観は洋書そのものであるのに本質的には機能性を十分に持った鍵掛けであることを重視して製作しました。

アイデアを考える際にこだわったことは、操作性抜群のマグネットによる開閉と洋書独特の表紙デザインです。合板の良さの一つである積層した際の断面の美しさを本のページに見立て、皮表紙にはアクセントとしてアンティーク調の装飾を加えることでより洋書のような外観にすることができたと思います。





## おうちの宝物入れ

森脇 紗代 もりわき・さよ●島根県・島根大学教育学部附属小学校／10歳  
共同制作者：松江木工クラブ

私がこの宝物入れを作ったきっかけは、部屋に置くと「おしゃれ」で「かわいい」、しかも「物入れには見えない」物入れが欲しかったからです。

この宝物入れは、下の引き出しによく使うものを入れて、上の屋根のところには大切な宝物を入れます。なぜ上の屋根に宝物を入れるのかというと、パッと見たとき、下の引き出しは見えるけど、屋根が開くとはわからないからです。

工夫したところは、引き出しの取っ手をドアの形にしたことと、「草むらの中にある家」に見せるために、おうちの下の方に緑色で草を描いたことです。その工夫で、都会の家ではないことを表しました。

最も訴えたいことは、横にステンドグラス風の窓の絵を描いたことです。そこがすごくかわいくて気に入っています。

自慢できることは2つです。1つ目は、テレビで見たメキシコの田舎の家がかわいかったので、それをイメージしてデザインしたこと。2つ目は、色を塗るときに、場所によってスプレーと絵具を使い分けて、全部自分でいねいに塗って、ステンドグラスも定規を使って自分で考えたデザインにしたということです。素敵でしょ。





## 「山下晃功 木育」賞(ジュニアの部)

# 和

森谷 聡 もりたに・さとし●神奈川県・横浜市立岡津中学校／15歳

僕がこの作品を作ろうと思ったきっかけは、家の和室に少しスペースがあり、そこに棚をおこうとしたが、店にちょうど良いサイズの棚が売っていなかったからです。

この作品で、最も工夫した所は、合板特有の断面のしま模様を生かした所です。和室におくので、和室においても違和感のないようにデザインを工夫しました。また、引き出しではなくスライドする扉にした理由は使う時に場所の制約がないからです。これも、この作品の工夫の一つです。

作る際に、少し失敗してしまったところもありましたが、なんとか完成させることができました。

先人の知恵と合板という現代の技術を融合させ、合板の美しさも感じることでできる自信の作品です。





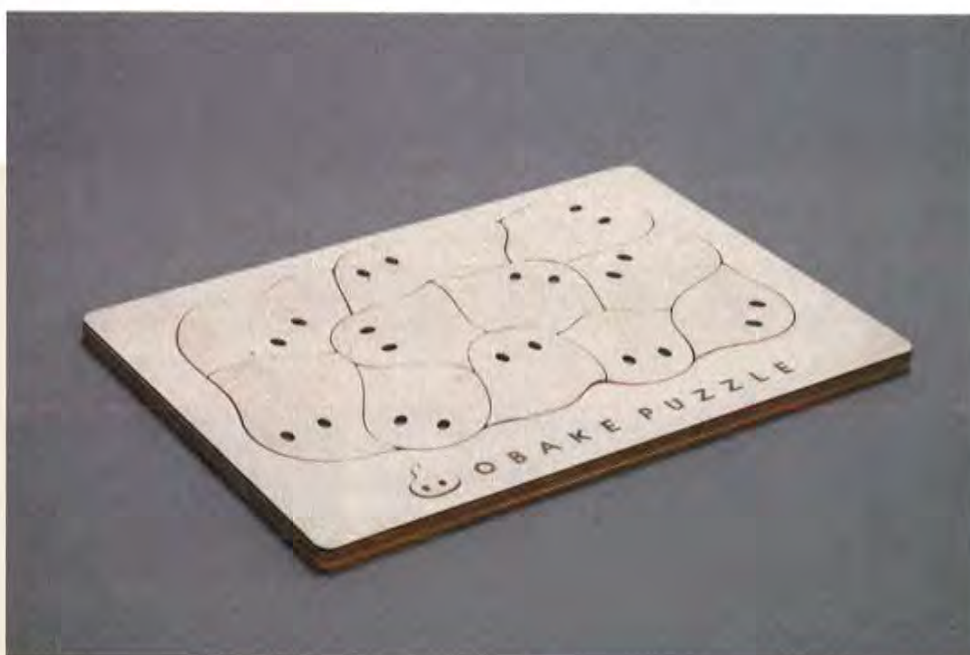
優秀賞

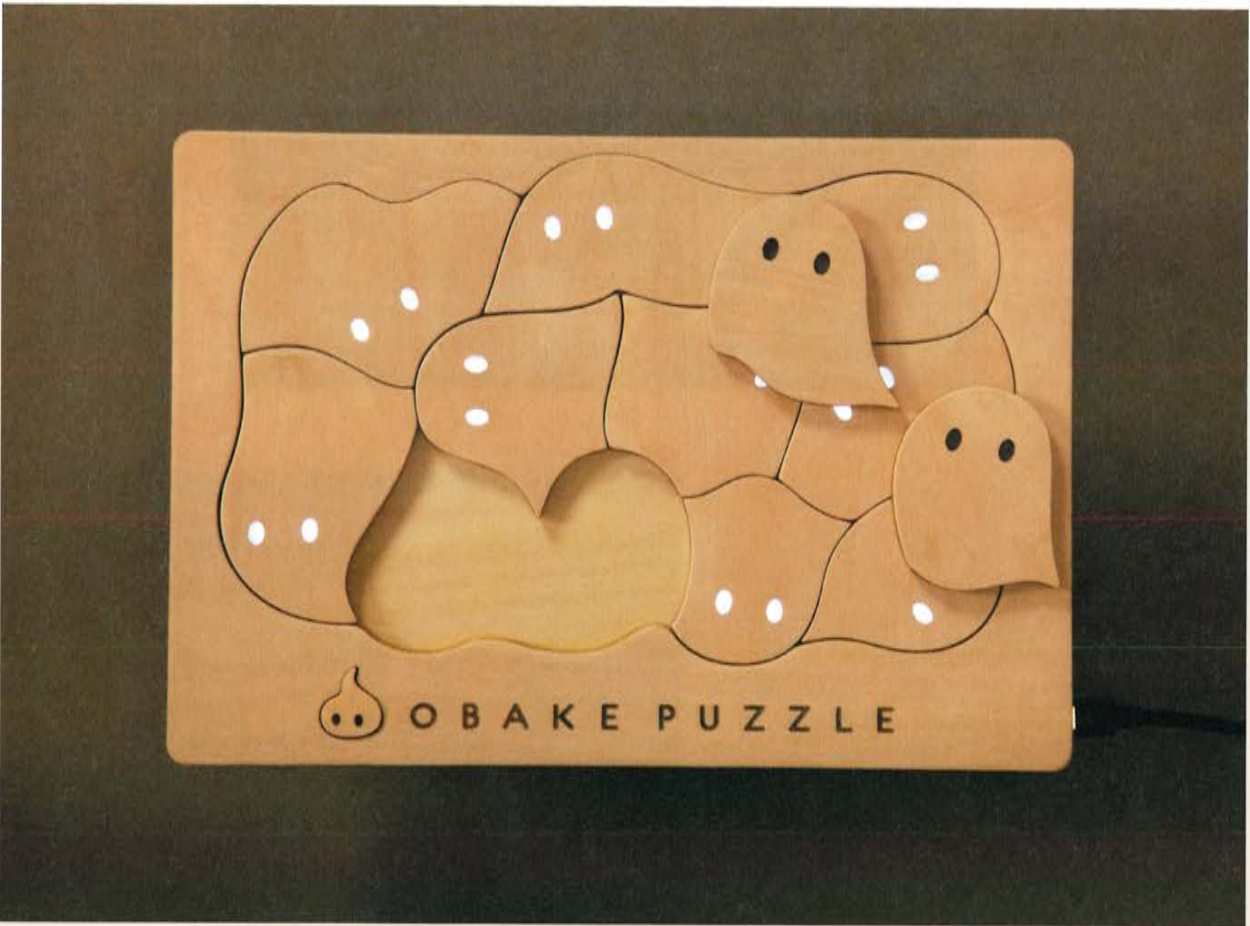
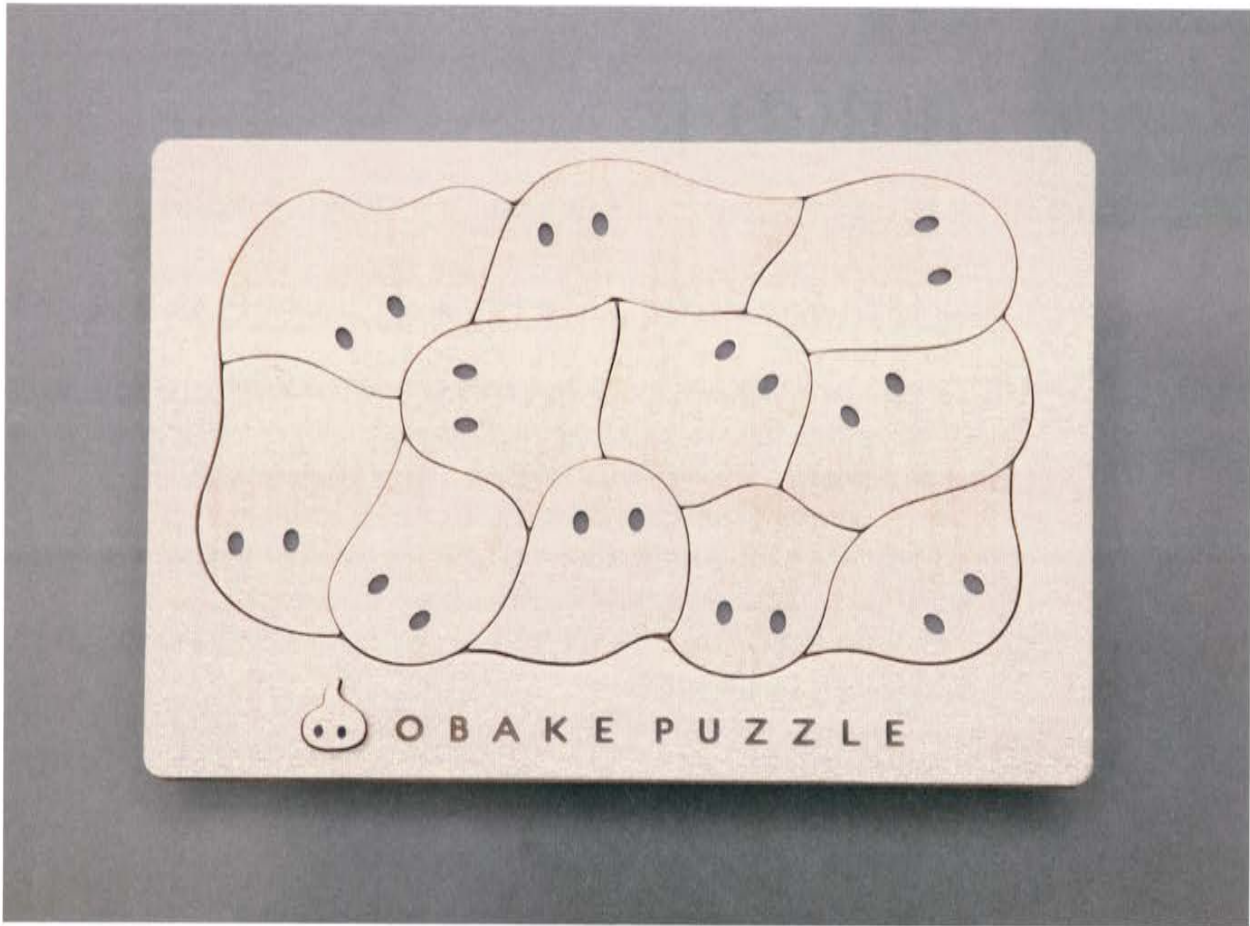
## おばけパズル

井上 幸人 いのうえ・ゆきと ●東京都/34歳

厚み1.5mmのシナ合板（共芯）1枚からできているおばけのパズルです

- ・目が光る、不思議なおばけのパズル  
一見普通の木製のパズルですが、ピースをはめていくとオバケの目が光り出す、インタラクティブなパズルです。
- ・シンプルで裏表のないデザイン  
たった11ピースのオバケの形をしたパズルですが、デザインがシンプルな曲線で構成されており、また表裏の区別がつかないため見た目以上に難易度も高いので、小さな子供から大人まで十分に楽しむことが出来ます。難しさを演出するため、表でも裏でも、また不正解の位置でも目が光るように設計しています。
- ・「木」の質感と「非接触給電」というエレクトロニクスの融合  
「木」というあたたかく馴染みのある素材を使い、表面に全く電気的な接点をつくらずに、ピースをはめていくと目が光る、という驚きを「非接触給電」のテクノロジーを使うことで実現しました。







優秀賞

# 知恵の玉

木林 昭夫 きばやし・あきお●愛知県/82歳 共同制作者：門田祥吾

この作品の特徴は正五角形を集めた正十二面体に仕上げた所です。特に難しかったところは、加工です。

まず最初に合板を重ね合わせ、正十二面体の大きいブロックを作り、そこから中の正十二面体を削りだしていきました。削り出す作業では、中のものを削り出す際に刃を深く入れなければならず、何度も正十二面体を壊してしまい苦労しました。

また、合板の積層面が美しくできるように工夫しました。

このように、作り方を説明すればどうやって作ったかわかると思うのですが、作品を見ただけでは、なかなか作り方をすぐにわかる人はいないと思います。

この作品を手にとって、どうやって作ったのだろうと見た人が不思議に思い、色々と考えていただけると嬉しいです。





## 特別賞

# 道後温泉駅と坊っちゃん列車

鈴木 豪 すずき・こう ●愛知県・愛知県立名古屋鬮学校産業工芸科/20歳

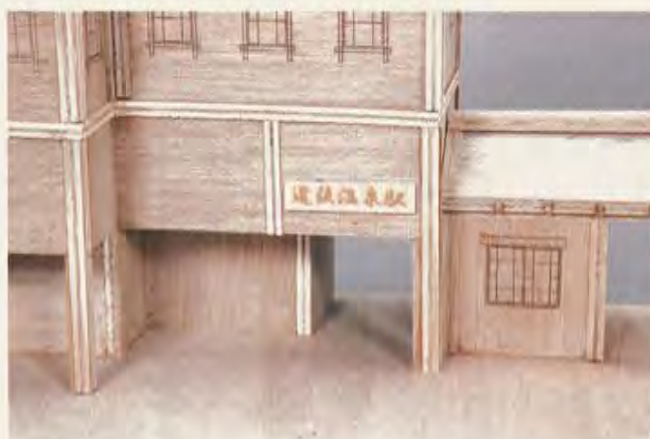
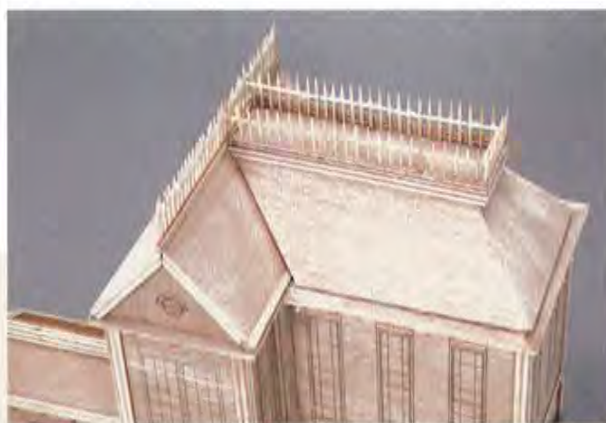
学校の修了研究で何か作ろうと考えた時、学生生活最後のこの年に1人で旅行した四国の道後温泉の駅舎と坊っちゃん列車を合板でシオラマにしようと思いました。

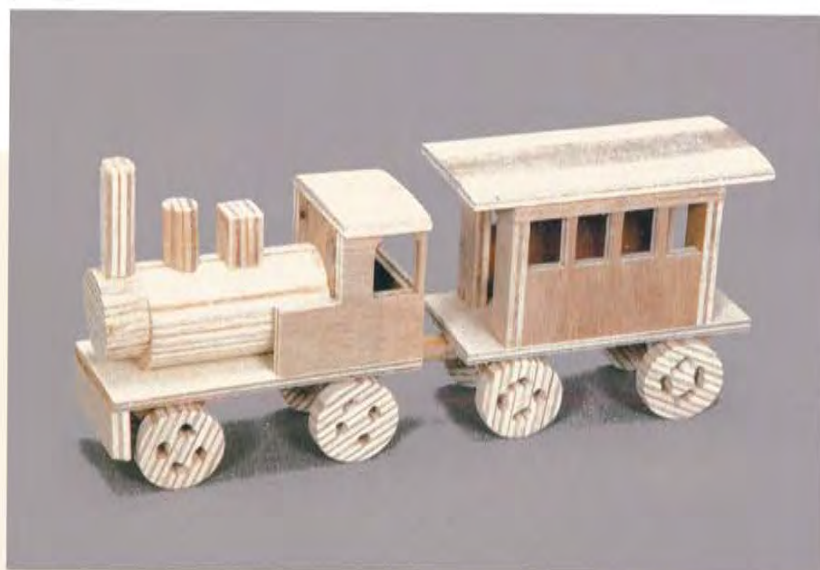
4月から構想をはじめ、5月から製作にとりかかりました。自分で見てきた駅舎と撮った写真をもとに再現したいと思い、駅舎の窓はJW-cadで描き、それをレーザー加工機で焼き付けました。柱も1~2mmに薄く切った合板の木目の模様を活かして貼り付け、本物に近くなるようにしました。機関車のボイラーの部分は数枚の合板を貼り合わせ、木工旋盤で筒にしました。

駅舎や機関車の実際の大きさから同じスケールで縮小すると駅舎が大きすぎたり列車が小さすぎたりしたので、全体のバランスを考えながら、最終的に駅舎が40分の1、列車が25分の1に縮小することに決めて製作しました。組立てる時は、合板の厚さの9mmを考えて、ズレないように1つ1つ角を丁寧に貼り合わせていきました。

製作期間は5月から10月初めまで(8月を除いて)約4ヶ月間です。かかった費用は合板(9mm)3分の2枚で1,000円、機関車の床部分に使ったシナベニヤ(15×60cm)100円程、つまようじ30本で30円の計1,130円です。

学校を卒業したら、作品は自分の部屋に飾り、旅行のことや製作の時の思い出しながら眺めたいと思います。





## 特別賞

# 江戸神輿

西澤 直斗 にしざわ・なおと●東京都・東京都立工芸高等学校／16歳

今回、「江戸神輿」を作るにあたり、各地の神輿の写真や実物を見て、1つ1つの部分を丁寧且つこだわって作りあげました。又、合板の特徴を最大限に活かしました。例えば、屋根のカーブは曲げ合板を切って使用して、華麗な勾配を出し、その下のます組みという部分では、合板の美しい断面が見えるように考えて作るなどしました。その他にも、この作品「江戸神輿」は一般的な神輿の内部構造に倣い、本柱や四本柱という柱を入れたり、基本的な部分において、釘を使用しない技法を取り入れるなどしました。

なので、この1基の神輿の中に数々の工夫と、江戸伝統工芸の素晴らしさを詰め込んだ作品となりました。

また、今回作品を作るにあたり、力を貸していただいた先生や、共同制作者の方に心より感謝申し上げます。





# 合板でオシャレ！

糸のこキヤット いとのこきやっと ●愛知県 / 50歳

合板を使って日常的に使えるものを作ろうと思い製作しました。

合板もファッションの中に取り入れることができます。

ドレッサー、三角スツール、アクセサリー(サングラス・ネックレス・イヤリング・ブローチ)







## 弟のための家

山谷 翔太 やまや・しょうた●神奈川県・横浜市立岡津中学校／13歳

弟がちょきんがにがてなので私がちょきんばこをつくってあげました。小銭とお札をいっしょにためられるという、とてもためやすいちょきんばこです。なぜ家がたなのかというと、弟がほんものの家を買いたいといっていました。そのためにこの作品を作りました。この作品は弟の誕生日プレゼントにしたいのです。



# 木製サッカーゲーム

石田 凱風 いしだ・がいふう ●愛知県・愛知県立名古屋聾学校産業工芸科 / 19歳

今まで産業工芸科で木材加工について勉強してきたので、その技術を使い、私はサッカーが好きなので、子供も遊べるようなサッカーゲームを作りたいと思いました。

木製サッカーゲームの仕様をインターネットで調査したら、サッカーゲームには仕組みが色々あることが分かり、工程が難しいものもあり、自分が楽しんで製作できる仕組みのものを選びました。合板を重ねて貼り合わせた人形を作り、1本の棒に3人ずつ選手を相手チームと互い違いに通し、操作棒を動かすと人形が同時にぐるんと回ったり、左右に動いてボールを入れるという仕組みになっています。選手の顔を自分や友達の顔にしたら面白いなと思って描いたら、愛着が湧き楽しくなりました。難しかったことは、サッカーコートの変換図をベニヤに下書きし、アクリル絵の具で芝生の色を全面塗り、マスキングテープを使って白線がはっきりと出るようにしたところで、14人の人形をバーに通す為の穴を、印からズレない様に、力を入れてボール盤で開けるのが大変でした。また、選手や点数板、飾りを、楽しくなるように色を選んで着色しました。

製作日数は約4ヶ月かかり、難しい工程も作り直しをして試行錯誤しながら作りました。使用した材料は、合板12mmを1/2枚、シナベニヤを1/8枚、丸棒1本半、グリップ用丸棒1/2本、アクリル絵の具を使い、2,400円程の費用がかかりました。



## ベニヤーチェアー

高橋 裕哉 たかはし・ゆうや●東京都・東京都立工芸高等学校／17歳

私がこの作品を作ろうと思ったきっかけは、合板について考えているとき「無垢材で作られているところを合板でできるのかな？」という疑問を持ったからです。

そこで、普通なら無垢材や金属で作られている部分を合板に置き換えて作ってみようと考えました。そして普通に作るだけでは、合板を活かせないと思ったので、無垢材よりも簡単に曲げることのできる合板を背もたれに適した形に曲げ、背もたれとしました。座面には編み込んだ合板を使うことでクッションとは違う、合板ならではの弾力性を出しました。椅子のデザインは普通の椅子とあまり変わりはないですが、椅子の脚や貫などの全ての部材が合板を積層させて作られているので、合板の積層断面が逆に良い味を出していると思います。サイズは作業椅子に適した大きさに作っており、軽い休息やパソコン作業に良いです。そしてこどもでも無理なく座れる大きさです。

座面に合板を編み込んで使ったことで合板独特の弾力性が感じられるこの椅子にぜひ座って、それを感じてもらいたいです。



## PETable / ペッタブル (PETbottles × portable)

篠原 彩巴 しのはら・いろは ●東京都・東京都立工芸高等学校 / 17歳

PETableという作品は、PETbottles（ペットボトル）とPortable（持ち運ぶ）を組み合わせた持ち運び置き型照明になっています。

コンセプトは、「誰にでも使える安らく照明」です。

名前の通りペットボトル型で30cmというコンパクトなサイズなので、小さい子供からおばあちゃん、おじいちゃんでも持ち運びやすい照明になっています。

また、照明の灯りをつける際にPETableの蓋の部分を持って外し、電球を押せば点灯するので誰でも簡単につけたり消したりすることができます。ペットボトルのラベルにあたる部分には、半透明の紙を使用しているのであたたかみのある灯りになっています。

PETableを使う場面としては、最近珍しいことでは無くなってきている災害、避難時の場面などです。避難をする際に避難所では、個人の空間を確保することが難しくなってきます。その時に、この照明を使用して少しでも安らくことが出来るようになっていきます。災害の時のみならず、普段使いとしても使用できます。

持ち運びしやすいようにコードレスにしました。

現存するものをモチーフにしたことで、誰にでも愛着のわくような照明になっています。

また、合板の層を最大限に活かした作品になっています。



## 奨励賞

# 光るぶどう

本間 琢也 ほんま・たくや●東京都・東京学芸大学/21歳  
共同制作者：佐藤康・瀬谷航太

この作品を作ろうと思ったきっかけは、日々の生活空間を新たに彩ってくれるようなインテリアとしての照明を製作したいと思ったからである。そこで私たちは、合板の特徴である木材特有の異方性がなく、加工する形状に制約が少ないことを活かして、意匠性が高く、殺風景な洗面所や寝室などの空間に彩りを加え、より美しい空間を演出してくれるようなインテリアとしての照明を製作したいと考えた。

この作品で最もうったえたいことは、合板の特徴である単板が層になっている側面から見た美しいグラデーションを活かし、塗装等をしなくても合板の模様がインテリアの美しさの要素の一つになっていることである。そこで私たちは、複数の合板を重ね合わせることで合板の層のグラデーションがより一層美しくなるように意匠性を考え作品を製作した。



## やわらか木枕

三根 拓也 みね・たくや●神奈川県・横浜国立大学大学院/24歳

この作品は、夏場の暑い夜でも快適に寝られる枕がほしいと思い製作しました。特にこだわった所は、ばねの部分で厚さ2mmの薄い合板と厚さ12mmの合板を組み合わせ、ばねの形状にすることで枕の柔らかさを表現しました。

ばねの製作時、合板表面の繊維の方向の縦横または、斜めに力を加えた時、曲がりやすい向きと固くなる向きがあることがわかりました。組み合わせる際にほどよい反発の出た横向きを選びました。また、横長の1つのばねではなく、3つのばねを使用することによって、1つのばねに重さがかかると左右のばねが包み込むような形となり、頭部をしっかり支えてくれます。

枕カバーは合板の模様を生かすために丸く削ることで見た目のやわらかさを出しました。紐でつなげたため、一つ一つの棒にすきまがあり通気性を良くしているところです。



## 努力賞

# まあはす号～みんな笑顔になる～

学童・子ども教室まあはす●神奈川県／6～8歳

私たち（学童の児童）は、「まあはす号に、みんなが笑顔になる！」という想いを込めて、設計から、デザイン、部品選びなど、みんなで一緒に考えたり、分担をして、細かなところを相談したり、インターネットでたくさんの画像をみて、いいものを探したりしま



した。組み立ては、小林先生にも手伝ってもらいました。

ぜひ、乗っている人も、押している人も、そして周りで見ている人たちも、楽しい気持ちになって欲しいです！

## 努力賞

# 小物の家

島村 かれん しまむら・かれん●島根県・島根大学教育学部附属小学校／9歳  
共同製作者：松江木工クラブ

まず私は、小物の整理がにが手なので、すぐに、小物入れを作ろうと思いました。出来あがったところは、すぐにそうぞうできましたが、予想外にむずかしかったです。私の書いた、絵にもとづいて、木工クラブの人が、木を切ってくれました。材料の大きさは、合板12mmのしんようじゅです。

木を切ってくださったので、2日で出来ました。でも、屋根がはまらなくて、だい分、くろうしました。屋根を作るのは、2日目になりました。せつ計は、予想だけでは、なく、一つ一つ計算をしていかないといけないということが、分かりました。前から見たかんじがカワイイので、みてください。



## 努力賞

# ゴミ箱(ティッシュを備えてる)

千葉 太元 ちば・たいげん●島根県・島根大学教育学部附属小学校/10歳  
共同制作者: 松江木工クラブ

木工クラブの活動で、作品を作る事になり家で実用的に使えるものを作りたいと思った。お店で買えるゴミ箱は少し小さい感じがするから、自分で作ろうと思った。ゴミが入れやすい様に入口の穴は大きくした。

ゴミ箱が大きいから、大きなゴミでも捨てられるように、蓋は開閉式にして、ゴミも取り出しやすいように工夫した。



## 努力賞

# エコバック

佐藤 渉 さとう・わたる●宮城県・仙台市立仙台工業高等学校/17歳



木100%で出来ているバックは、インターネットなどで調べても中々見つからないので題材としてはすごく良いのですが、良い見本が無いためどういう風に作っていけばわからず、製作する時はかなり苦勞しました。しかし、先生方や友達からのアドバイスやサポートのおかげで無事に作品を完成させることができました。サイズは、一般的なエコバックと同じサイズなので、実際に使用もできるように設計しました。

今回の作品で一番力を入れた部分は「持ち手」です。持ってみても違和感が無いようにあまり太くせず細めに設計しました。持ち手は曲線なので、糸のこぎりで丁寧に切り取るのが非常に難しく時間もかかりましたが、良い出来に仕上がりました。



## 努力賞

# トランスフォーメーションバッグ

加藤 実桜 かとう・みお ●島根県・島根県立出雲商業高等学校 / 17歳



この作品で最もうったえたいことは、日常生活で使用するものをより便利に簡単に使えるようにしたこと。この作品で最も工夫したところは、普段はかばんとして使っていたものを、外出先で座りたいと思った時に、鞆を立てるだけでイスにかわること、イスにしたい時に鞆の中にある支える板をつける事で座った時に不安定にある心配もなく安心して座れるということです。板で作られた鞆はめずらしいと思うので、外出する際のオシャレの一つとして使うこともできます。

## 努力賞

# イス型スーツケース

宮下 凱充 みやした・かいしゅう ●神奈川県・神奈川県立平塚工科高等学校 / 17歳

多くのスーツケースは合成樹脂を材料として製造されていて、一部に金属材料が使われています。しかしそこに木材が使われる余地はなく、無機質なものであるという印象は拭えません。私はこのようなスーツケースに木独特の見た目や質感を与えることで、その印象を和らげることができるはずだと考えました。ハンドルを引き出せば一般的な製品と同じように引いて歩くことができますし、座板を出すことで、ハンドルを背板として座ることもできます。



努力賞

## スライドチェア

黒木 俊希 くらぎ・としき ●宮崎県・宮崎大学 / 18歳  
共同制作者：島盛一輝・下石和樹

この椅子は伸縮が可能な椅子です。この椅子は横にスライドさせることで大人二人分が座れるくらいの椅子になります。これなら自宅や外で友人や家族などと過ごす際にはとても便利です。また、普段は閉じたままの状態にしておけば室内に保管しておく際や車で持ち運ぶときはスペースをとること無く持ち運びをすることが出来ます。



## 審査委員特別賞

# 木の歯車

加賀谷 友冴 かがや・ゆうが ●東京都・東京都立田無工業高等学校 / 16歳



この作品を作る上で工夫した所はたくさんあります。一つ目は、歯車の位置です。作った歯車が全部見えて全体的にバランスの良い所に配置しました。二つ目は、左上についている時計の文字盤です。文字は、焼きペンで書きました。文字盤の形は、周りと合わせるために歯車の形にしました。三つ目は、歯車を固定するための棒をさす穴です。木材用のドリルで穴をあけると穴が少し大きくなってしまいますので、鉄工用のドリルですこしきつめの穴をあけました。

## 審査委員特別賞

# 水戸聾学校産業工芸科オリジナル・パズル

茨城県立水戸聾学校産業工芸科 ●茨城県・茨城県立水戸聾学校産業工芸科 / 17~18歳

今回応募させていただいた作品は、もともとは組木で製作をしていたものです。組木を組み合わせる時、いろいろな色や木目の部分が模様になるように組み合わせますが、これを合板でもできないかと考えました。合板にも種類や使われている木によって独特の模様があったり様々な異なる色があるからです。「いのしし」は敢えて合板の裏面を表にしました。いのししのザラザラ感がだせていると思います。「うし」や「さる」は黒っぽい色の合板を選びました。「とら」「籠」「いぬ」は、種類や色の違う合板を組み合わせてみました。「ひつじ」は側の部分を使ってみました。シマシマのおもしろい模様が表現できたと思います。

製作は産業工芸科の2、3年生で行いました。枠の製作は3年生が担当し、動物の切り抜きは2年生5名が担当しました。



## 審査委員特別賞

# ロールチェア

中上 貴也 なかうえ・たかや●島根県・島根大学/20歳

私のこの作品は、建築家であるフランク・ゲーリーの作品の一つにある段ボールからできた椅子をお手本にしたもので、滑らかな曲面や座った時の柔らかさを合板で自分なりに再現しました。その際に、背もたれ部分の合板と曲面部分の合板の幅を変えることで、曲面を曲面らしく仕上げることができました。

工夫した点は、側面や背もたれ部分の上部にある収納スペースを設けたことであり、そこにはテレビのリモコンや雑誌を入れておくことができます。また、この椅子を玄関に置くのであれば、靴の脱ぎ履きの際に腰掛けることはもちろん、靴ベラや掃除用具、さらに靴までも収納することができます。そして、この独特なデザインに加え、これらの機能性によって訪れる人を惹きつけるインテリアとしても活用できると思います。

## 審査委員特別賞

# サイドテーブルとスツールのセット

長濱 萌菜 ながはま・もえな●沖縄県・沖縄県立芸術大学/22歳  
共同制作者：瓜田 一

この作品は、輸送以外にもノックダウン方式を活かせる作品となっています。スツールとサイドテーブルのセットとなっており、高低の違う2種類の脚部分と、一部分を異なった形で空けられた穴がある2種類の台座部分から成っています。細長い形の穴が空けられた座面部分には、タオルや布をかけられたりすることができます。丸い穴が3つ空けられた穴には、25mmの試験管をぴったり差し込むことができます。この試験管には絵筆などの細長い道具を収納することもできます。また、花を生けて一輪挿しなどを



してインテリアとしても楽しんだりすることができます。

この作品は機能と雰囲気の両方を生活空間で楽しむことができる家具となっています。使用者によってその用途は様々なものになると思います。ぜひ、あなただけの使い方を見つけて欲しいです。

## 審査委員特別賞

# 癒しのローテーブルライト

吉野 倅尚 よしの・よしひさ●埼玉県/52歳



今回、この作品を作ろうと思ったきっかけは、仕事から家に帰って何かホッとする空間を作りたいなと思ったのが始まりでした。部屋のライトを消して、テーブルのライトのスイッチを入れるとテーブルの中心から天井を照らす光と足元を照らすほのかな光が疲れた体を癒してくれそうです。

材料は針葉樹合板をチョイスしたのですが、これがまた当たりでステイン塗装をしましたが、木目が非常にきれいに浮かびでて何とも言えない存在感ができました。

週末木工を始めて1年程ですが、何かを作る度に工具が着実に増えています。これからも長くこの趣味を続けて行ければと思います。

## 審査委員特別賞

# Night Session

富岡 昭光 とみおか・あきみつ●東京都/55歳

私が最も力を入れて表現したところは、内からと外からの光がもたらす素材の質感の違いです。合板が持つ表面の質感と、切断面のサンドされた木材繊維の美しさを全体のフォルムで表現しました。特にライト部分には、建築的直線を基調にしたシンプルさと存在感を持たせました。日の光や室内の照明などで外から照らされた時の合板の粗い質感と、内からの灯かりで浮き上がる柔らかい質感の違いによる魅力を伝えられるように制作しました。

二つめは、台座部分の合板を厚さ21mmにし、上部ライトとのバランスを取るとともに実質的重量感を作り出し、その表面を合板の切断面を使って網代貼することで、軽やかでポップな感じに仕上げたところです。

このライトを室内に置くことで、昼夜を問わず、ライト周りに人が集い、家族の団欒、パーティー、音楽会等のセッションが繰り広げられる空間を演出できるように、計画、設計、製作を行いました。



●学研ドーパ!

DOIPA'S  
Select

## 合板1枚で こんなものが作れます

「全国合板1枚作品コンペ」をご存知だろうか?  
それは、主材を合板1枚に限定したユニークなコンペ。  
果たして合板1枚で何が作れるのか?  
ご覧のとおり、発想次第でいろんな発作を生み出せるのだ。

取材:文芸春秋社(本誌)/写真:池田昌幸/全国合板1枚作品コンペURL: <http://gouanconpe.jp>



作品名「踊る者2人B」  
藤澤浩二さん(60歳)作  
コンペ最優秀賞作品。スピーカー前面から  
だけでも、中面からの音も有効な造りすべ  
くデザインに仕上げている。5mm厚の皮  
が反らぬ様を切り出して組み重ねており、造  
り感、質感がひと味違う。オールドフィニッ  
ッシュ。サイズは幅170mm奥行300mm高さ860  
mm、15mm厚、18mm厚のシナ合板を従用

010

### ◆ 全国合板1枚作品コンペは、2010年に初めて開催。その後、2年おきに催され、昨秋に第4回の開催作品が決定した。ここで紹介するのは、その一部。受賞は決したが思わぬようなことで受賞作品が...

「コンペ」制作の条件は、30×60センチの正方形の合板1枚のみで制作すること。ただし、合板1枚がその範囲内であれば、埋め物の金釘や接着剤などを使っても構わない。この限られた材料で、いかにして合板の特性を生かした作品を作れるかと考へられること。このコンペに参加する面白さがある。そして、その答えは十八十九、1枚の板が、異なるもので、異なるほうとも面白い。

一部の作風は、引き立てたためのもので、会場でもその割れにくさを生かして、細く切り抜いたもの、板広材であることを有効活用して、水ぶりに切り抜いたもの、埋め物のためのヤシやササを利用したものなど、驚かされた。また、材料を最大限に使い切り、1枚の合板でこれだけのものが作れるのかと賞賛されてくれる作品も少なくない。

性に優れた木工業品であること。数えてくれるコンペ作品だ。DOIPA01からの、制作を奨励してほしいです。



作品名「ストローランプ」  
河村健夫さん(20歳)作  
ストローの切り身を共有するために、この作品は第一階層から中層まで切り身を共有し、第二階層にストローのような造り込みのある切り身を挿入した。側面のツマミを指すと、熱い切付のある口がストローの筒を押し上げる。サイズは幅200×奥行200×高さ465mm、12mm厚のウレタン合板、薄いシナ合板を従用

011

# 雑誌記事

## ●学研ドゥーパ!

DOPA'S Special



**作品名「真のベッド」**  
 榎原 真希さん(29歳) 作  
 合板1枚を使い切り、できるだけ木臭いものを作るといふコンセプトで作成。枠を組み込むように無骨な細い楕圓フレームは、ジョイントで作り出し、並入りにサンディング。底の板と安全体に気を配っている。脚は粗欠きで組み立て。サイズは幅300×奥行1800×高さ270mm、12mm厚の針葉樹合板を使用



**作品名「知恵の玉」**  
 木村 真希さん(22歳) 作  
 合板を削って正12面体のブロックを作ってから中の正12面体を削り出した。中を削る際に力を減らしたもので、角も外側の正12面体を使って復元した。サイズは幅200×奥行740×高さ340mm、ラワン合板と針葉樹合板を使用



**作品名「半玉(ごまき)」**  
 榎原 真希さん(29歳) 作  
 02部作のうち4部を30部を抜いたことでラウンシェードなどに使えそうなマツタニに、縁の部分は粗欠きで組み立て、7mm厚の合板を使い込んで調整している。サイズは幅600×高さ600mm、9mm厚のシナ合板を使用



**作品名「木製れんげの縁鏡」**  
 阿比留 真希さん(19歳) 作  
 縁鏡の型で削った合板が面白い、斜めに削り出した合板がその切り出しのフォームが良いため、縁鏡の縁を削ることを想定した縁鏡が、光が差し込むよう隙間にすき間をあけている。サイズは幅1000×奥行200×高さ200mm、12mm厚の針葉樹合板を使用



**作品名「フリーリクスツール」**  
 中野 真希さん(20歳) 作  
 面をほめたいと形が異なるツール。幅は240mm角の厚み40mmをデニム生地や薄紙の紙状のもの、自由に成形する。サイズは幅250×奥行250×高さ350mm(円筒型)、12mm厚のラワン合板と針葉樹合板を使用



**作品名「香櫃でオシャレ」**  
 伊藤 真希さん(25歳) 作  
 合板を使い切り、種別が映えるデザインに仕上げたスツールと、スツールに合わせて作ったデスク。素材でラミネートやアクリルを作り、合板1枚を使い切り切っている。サイズはスツールが幅200×奥行300×高さ300mm、デスクが幅400×奥行300×高さ1000mm、12mm厚のポプラ合板を使用



**作品名「光るふたろ」**  
 伊藤 真希さん(25歳) 作  
 ぶどうをイメージした照明。カラフルな前面を持つペーパーワグを使ったシェードは、それぞれ異なるサイズを組み合わせ、奥行調整は1-8段階で調整できる。サイズは幅200×奥行150×高さ1500mm、ペーパーワグ、12mm厚と15mm厚のシナ合板を使用



**作品名「真のスツール」**  
 藤田 真希さん(17歳) 作  
 活字山をイメージしたスツール。穴口に合わせた扉面には、2.5mm厚のシナ合板を使用。扉面の裏側は12mm厚のラワン合板で補強している。前後に設けた傾度調整機構の両サイドから出る出しの穴と位置調整している。サイズは幅70×奥行320×高さ500mm

1/3AD



**作品名「ゆわらか平杖」**  
 高橋新也さん(25歳)作  
 2m厚のラワン合板と12mm厚のシナ合板を敷いて作ったハイバックが、脚部を敷せるとほどよい沈み込む。合板表面の繊維の向きによって曲がりやすさが異なるため、最適な沈み方を狙ったのが特徴だ。サイズは幅840×奥行1057×高さ755mm

**作品名「Falling water」**  
 佐藤 隼人(21歳)作  
 山の峰で水が上から落ちてくるようなイメージでデザインした組、沖目の方向で斜めデザインに取り入れている。この作品もまた合板ならではの繊細のカットが効いている。サイズは幅635×奥行375×高さ995mm、12mm厚の杉板合板を使用



**作品名「Night Season」**  
 高橋新也さん(25歳)作  
 扇状になって合板がさまざまな隙間を見せるスタンド作り。そこに、水口の列も交互に配して作った台座が印象的だ。調光時の光の強い質だが、点灯時には裏面が暖かくなる。サイズは幅285×高さ1200mm、杉板合板とシナ合板を使用



**作品名「ぬいのローテーブルライト」**  
 菅野樹樹さん(22歳)作  
 照明を付込んだローテーブル。側面のスリットと天板の中央から光が漏れる。キックオフで移動が容易。スチール塗装仕上げ。サイズは幅600×奥行600×高さ465mm、12mm厚の杉板合板を使用



**作品名「key box」**  
 及川隼司さん(17歳)作  
 扉面の樹脂保護で木の小口を保護。深いラワン合板を壁に合わせ、小口が前面になるようサンディンクして雰囲気を出している。脚部も取り付けやすいボックス。ドアを流して仕上げられている。サイズは幅245×奥行50×高さ140mm



**作品名「Free-floating Panel 自由に動く薄板組立切りパネル」**  
 上原比呂志さん(21歳)作  
 扉面にヒートシートを貼って、現代のライフスタイルに合う個性化切り組立制作。光と光が通るように入念な左右の板は、脚やワックを好みの位置につけて便利。扉面でもワックを挿し、簡単に扉を戻さられるのがポイントだ。サイズは幅1060×奥行800×高さ1310mm、10mm厚のシナ合板とPVCを使用



**作品名「薄板建築模型とつっこやん列車」**  
 鈴木 隼人さん作  
 駅舎は1/40スケールで、列車は1/25スケール。1/40スケールは思い入れのあるスケールで、建築模型の作りかたやサイズは合板を切り合わせ、木工塗装で仕上げた。駅舎はJW-CADで描き、レーザー加工機で切り出した。サイズは幅640×奥行400×高さ425mm、9mm厚のラワン合板などを使用



# フォトグラフ

## 2次審査



## 表彰式



会場：新木場タワー



副賞(トロフィーならびに盾)



作品展示



公益社団法人日本木材加工技術協会会長挨拶



合成樹脂工業協会接着剤部会長挨拶



表彰



入賞者挨拶



集合写真

# コンペ記録

## 第1回 (2010年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
<b>ジュニアの部</b>					
林野庁長官賞(最優秀賞)	ぐるぐるランプシェード	後藤 康明	島根県	14	
優秀賞	puzzle	小森明日香	大阪府	16	
優秀賞	折りたたみ椅子??	鈴木 さえ	東京都	18	
優秀賞	傾きマガジンラック	長澤 健	島根県	15	
審査委員会特別賞	マトリョシカ	菅原 香織	大阪府	17	
審査委員会特別賞	大くわがた	田村 和也	岡山県	10	田村万知子
特別賞	木製シーラカンス	川部 知也	島根県	10	
特別賞	ハムスターテーブル	河合 月	島根県	9	
特別賞	サクライス	濱澤 瞳子	大阪府	17	
特別賞	マガジンラック	吉岡 朱音	島根県	11	
特別賞	立っても座っても使える台	鷺見 玲香	岐阜県	11	
特別賞	うらがえせばつくえ	井上 衛	島根県	11	
特別賞	テーブルとイス	野津由起絵	島根県	11	
特別賞	ドラえもんチェア	南山 友花	島根県	10	
<b>一般の部</b>					
林野庁長官賞(最優秀賞)	Doze board	寺島 徹	東京都	46	福地誠司、岡村夏子
優秀賞	ばねるいす	赤松 明	埼玉県	59	西田雄紀
優秀賞	ダストボックス	門田 祥吾	愛知県	24	畑山、平田
優秀賞	三段整理箱	管田 英武	島根県	68	
特別賞	花器	多久和章吉	島根県	69	
特別賞	テーブルイスシステム	八畝 明弘	北海道	49	松本久美子
特別賞	行灯	星野 武敏	島根県	72	
特別賞	FLOWER TABLE	藪田 忠之	大阪府	35	湯村啓、橋詰香奈、 酒井マンボウ、 ゴリラゲリラ
特別賞	両面(折畳式)間仕切棚	福代 明義	島根県	77	
特別賞	花台つき八角椅子	長澤 郁夫	島根県	51	
特別賞	OH chair	中西 要成	北海道	63	

特別賞	HANGER	藪田 忠之	大阪府	35	湯村啓、橋詰香奈、 酒井マンボウ、 ゴリラゲリラ
特別賞	合板テーブル漆仕上げ	久津 美卓	新潟県	29	
特別賞	レーシングカー	奥村 卓三	島根県	68	

## 第2回 (2012年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
<b>ジュニアの部</b>					
最優秀賞(林野庁長官賞)	curve shelf	小林 美蘭	神奈川県	19	
公益社団法人日本木材加工 技術協会会長賞	レンタルKASAYA	原 裕祐	島根県	17	成相哲哉
日本合板工業組合連合会会長賞	ドーム型スツール	石曾根斐子	東京都	17	
「倉澤 實」記念賞	ドーム型スツール	石曾根斐子	東京都	17	
優秀賞	格子イス	三浦 伸晃	東京都	15	
優秀賞	組木ランプ	川部 知也	島根県	12	
特別賞	エッジチェアー	高橋 祐人	東京都	19	小西均
特別賞	夏の木漏れ日	島上 直哉	東京都	18	
審査委員特別賞	きになるき	高橋椿太郎	島根県	11	高橋恭子
審査委員特別賞	真木剣	安藤 大祐	東京都	16	
審査委員特別賞	日本列島パズル付き整理箱	石川 達也	愛知県	18	
審査委員特別賞	網代椅子	大和田智子	東京都	16	
審査委員特別賞	鰐の親子	榊原 拓也	愛知県	19	
審査委員特別賞	さんりんしゃ	小林 遼大	東京都	17	
<b>一般の部</b>					
最優秀賞(林野庁長官賞)	積層スツール	野坂 季生	北海道	20	
公益社団法人日本木材加工 技術協会会長賞	KomoRebi Rack	岩下 裕樹	埼玉県	22	
日本合板工業組合連合会会長賞	36	塩谷 美夏	沖縄県	23	
「倉澤 実」記念賞	PLY TREE(プライツリー)	吉田 優	静岡県	69	渡辺俊介

# コンペ記録

優秀賞	pa-stool	成田 歩未	北海道	29	
優秀賞	スカイ・スツール	管田 英武	島根県	70	
特別賞	楽棚	門田 祥吾	愛知県	26	井桁勝人、木林昭夫
特別賞	木馬	花田 修三	島根県	69	
審査委員特別賞	ゼブラ スツール	中西 要成	北海道	65	
審査委員特別賞	Wave Chair	市場 純生	神奈川県	50	
審査委員特別賞	鉢カバー	奥村 卓三	島根県	70	
審査委員特別賞	コの字ラック	清水 良太	埼玉県	21	
審査委員特別賞	つるのテーブル	三輪 大吾	島根県	20	浅原一哉
審査委員特別賞	合板ドリームランド	大野 公輔	愛知県	20	
審査委員特別賞	八岐大蛇	片山 滋文	愛知県	20	

## 第3回 (2014年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
最優秀賞(林野庁長官賞)	花は咲く	奥村 卓三	島根県	72	
公益社団法人 日本木材 加工技術協会会長賞	水槽♪	門田 祥吾	愛知県	28	木林昭夫、井桁勝人
日本合板工業組合連合会会長賞	アーチチェア	吉原 直樹	静岡県	16	
NPO法人 木材・合板博物館 理事長賞	TDB-50	砺波 浩二	富山県	54	
「合板1枚・作品コンペ 発祥の地 島根」賞	板月(はんげつ)	横尾 かな	東京都	18	
「倉澤 貫 デザイン」賞	水槽♪	門田 祥吾	愛知県	28	木林昭夫、井桁勝人
「山下晃功 木育」賞	附小看板(校長室、図書館、 夢が広がる図工室)	島根大学 教育学部附属 小学校ちどり 造形クラブ	島根県	9~12	松村ひびろ、葛上智暁、 高橋祐衣、山口善大、 伊達優馬、南山琳咲、 山辺咲希穂、安部聡美、 吉田百花、野坂育見、 海出 遥、長谷川もも、 安藤龍哉

優秀賞	ZENI CUBE	白鳥 孝	北海道	45	北海道小樽工業高等学校建設科
優秀賞	星型テーブル&イス	祖父江事志	愛知県	20	
特別賞	15匹猫	厚地紗有加	愛知県	20	
特別賞	グレープの壁飾り	菅田 英武	島根県	72	
審査委員特別賞	仲良し四人組のための勉強机 ～世界は支えあい大切です!～	内藤 茂樹	兵庫県	40	
審査委員特別賞	lotus lamp	中 太郎	東京都	24	
審査委員特別賞	a ツール	田口 悠人	東京都	18	
審査委員特別賞	曲下駄	荒井 佑一	東京都	18	

# 募集チラシ

地球環境のために、合板を使おう！

本建材社の代名詞「合板」は21世紀の「産業革命時代」に引きわかれ、地球上で美しく、持続可能な天然資源を原料にして製造されています。また、最新の木材加工技術により高い性能と耐性を誇る、私たちの生活になくてはならない建材、生活緑材でもあります。この地球環境にも良い合板の味を、美しさ、強さと、節目を、経済など多面的な価値の魅力を、みなさんの力によって引き出しましょう！

## 第4回全国合板1枚作品コンペ

1次応募期間 (作品の書類のみをお送りください)  
平成28年  
8月22日(月)～9月9日(金) 必着

2次応募期間 (作品の实物をお送りください)  
平成28年  
9月26日(月)～10月12日(水) 必着  
※1次応募(書類)で、選ばれる方は、2次応募で作品の郵送をお願い、審査を行います。

●ホームページ  
<http://gouhankompe.jp>

◎主催団体 / 公益社団法人 日本木材加工技術協会、日本木材工業組合連合会、公益財団法人 PHOENIX (本社:合板博物館)、日本合板商協組合  
協賛団体(下記) / 公益財団法人 住友産業財団、公益財団法人 豊田財団、公益財団法人 日本木材工業協会、公益財団法人 日本合板協会、  
独立系企業 / 株式会社 積水造業株式会社、株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、  
一般社団法人 / 株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、  
有限責任個人合資会社 / 株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、  
一般社団法人 / 株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、  
一般社団法人 / 株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、  
一般社団法人 / 株式会社 日本木材工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、株式会社 日本合板工業株式会社、

**最優秀賞 (林野庁長官賞)**  
賞金 20万円

本報告書の雑誌記事は、承諾を得て掲載しております。関係各位に御礼申し上げます。

## 編集後記

第4回全国合板1枚・作品コンペ報告書を作成することが出来ました。合板の美しさ、機能性を皆様に伝えることができれば幸いです。最後になりましたが、編集にご協力頂きました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

## 第4回全国合板1枚・作品コンペ報告書

2017年3月発行

編集  
東原 貴志  
田中 孝  
寺島 徹  
発行人  
小林 大介

# 2016 Collection of plywood works

第4回全国合板1枚・作品コンペ報告書